

まえがき

将来、建築に関わる仕事をしたいと思ったのは小学生のときでした。途中コンピューターの勉強もやるうかと思つたのですが、結局建築学科に進み、卒業後主にマンションの設計を行っている大阪にある中堅の設計事務所にお世話になることになりました。

ここでは、土地情報を手にした後の事業シミュレーションや企画設計、実施設計、行政への各種申請、現場監理と、マンションの設計の一から十までを経験しました。その後、沖繩でのリゾートホテル開発計画を現地で設計できる人材を探しているとのことで、事務所を移り意気揚々と那覇に引越したものの、バブル崩壊で計画は無期延期になり、その事務所が元々手がけていた店舗ビルの現場監理を行うなどして、三年半で大阪に戻ることになりました。大阪では、引き続きマンションの設計などを行っていましたが、そこで人生の転換となる出来事が起きます。

阪神淡路大震災です。

当時大阪市内のマンションに住んでいたのですが、これまで経験したこともない揺れに飛び起き、マンションのコンクリートがミシミシと音を立てるのを聞きながら、「最初に壊れるのは柱の上部

だったかな」などと思いながら、数分間を過ごしました。きつと上町断層で地震が起きたに違いないと思いつながらテレビをつけると、震源地は神戸で死者が多数出ているとのことでした。大阪市内であれだけ揺れたのであれば、神戸は相当の揺れだっただろうと思いつながらテレビを見ていると、夜明けとともに高速道路が横倒しになっている映像やビルが倒壊している映像が飛び込んできました。

沖縄に住んでいる頃から、パソコン通信NETV-Serveの建築フォーラムに所属しており、時折建築相談などをしていたのですが、震災後まもなく、フォーラムのメンバーから震災についての建築相談を受け付ける窓口をつくったので協力できる建築士を募集しているとの呼びかけがありました。さっそく応募して、木造の建物の設計も行ったことがない状態でしたが、にわか勉強をして、二人一組で町中に飛び出し出していきました。

神戸での活動は秋頃まで続きましたが、そこで見た神戸の街は自分が知っている建築の世界とは大きく違ったものでした。

例えば、木造住宅の図面はほとんど作られていないとか、建築確認申請通り建てられていない建物などいくらかでもあるとか、完了検査を受けている住宅は皆無だとか、建築士がきちんと監理して

いる住宅などほとんどないとか。

また、住宅を入手した人が、雨漏りや建物の沈下、耐震性能の不備など、いろいろな不具合で困っているが裁判をやってもなかなか勝てないなどの話も聞きました。

図面を何十枚も描いて、行政の重箱の隅をつつくような面倒な審査を通し、夜遅くまで現場検査を行い、引き渡し工程に合わせて完了検査を受けるといふ法令を守ってきちんとした建物を建てるということが当たり前。しかしそれとはまったく別の世界があることを初めて知ったのです。神戸での相談を受けているうちに、自分の建築士としての職能を生かすのはマンションやリゾートホテルを設計することではなく、このような問題に正面から向き合い対処すること、きちんとした木造住宅を設計することだと考え、継続しているマンション関係の仕事については外注として続けながら、形としては退職して独立しました。

阪神淡路大震災の際に、建物の欠陥が社会的にクローズアップされ、弁護士側からも建築士側からも問題解決のために活動を行う必要があるということで、欠陥住宅被害全国連絡協議会（通称欠陥住宅ネット）が発足し、その発足会から参加することになりました。

その後、マンションの耐震偽装事件や建築基準法の改正などが行われ、阪神淡路大震災の頃と比べると住宅の安全性は飛躍的によくなってきましたが、まだまだ「何も知らないで家を買っても大丈夫ですよ」とは言えない状況です。

この本では、どのような仕組みで家がつくられているのか。どのような人が関わっているのか。法律はどこまで守ってくれるのか。あなたは何をしないといけないのか。これらを紹介することで、あなたの家づくりを応援できればと考えています。